

Ⅲ. 専 門 分 野

[母性看護学]

必修科目(32)

科目	母性看護学 母性看護概論	単位	1	時間数	15	開講期	1年後期	担当者	助産師:脇田由紀子 保健師
----	-----------------	----	---	-----	----	-----	------	-----	------------------

講義の概要および学習目標	<p>次世代が健康に生まれ育つためには、さらに、人間が健康であるためには、生涯を通して人間の性と生殖に関する健康が守られる必要がある。母性看護概論では、人間の性という視点から、母性看護の基盤となる概念を学び、母性看護の対象を現代社会における性の多様性や対象を取り巻く環境と合わせながら理解する。そこから、母性看護の役割を考えていく。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 母性看護の対象と特徴及び看護の役割について理解する 2 人間の性の多様性について理解する 3 近年の女性を取り巻く社会環境を知り、日本における法律や施策の現状を理解する
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 母性、父性、親性 2 人間の性 3 女性のライフサイクル(思春期・成熟期・更年期・老年期)の身体的・心理的・社会的変化 4 母子保健に関する法律、母子保健施策、社会の動向 5 母性看護の役割
評価法	出席状況、課題、グループワークや共有会への取り組み状況、筆記試験を総合して評価する。
受講生への要望	<p>自身の体験および授業をとおして、性について自己の考えを深める機会にしてほしい。日頃から、ニュースなど社会の動向に興味と関心を持ち、自己の考えを表現してほしい。そして、事前課題やグループワークなどでも、自己の考え、他者の考えを大切にしながら、ディスカッションし新たな知見を得てほしい。</p> <p>※基礎体温測定を課題にします。婦人体温計および記録用紙が必要となります。詳細については、初講開始前に説明します。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門分野「母性看護学概論」／森 恵美 他／医学書院 2) 国民衛生の動向(2026/2027)／厚生統計協会 3) 生涯人間発達論 第3版／服部 祥子／医学書院
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>授業の中で紹介していきます。</p>

必修科目(33)

科目	母性看護学 母性看護援助論	単位	1	時間数	30	開講期	2年前期	担当者	助産師:脇田由紀子 助産師:杉山 加苗 助産師:小長井由樹
----	------------------	----	---	-----	----	-----	------	-----	-------------------------------------

講義の概要および学習目標	<p>本科目は、女性の一生を支えていく看護の基本について学んでいく科目である。女性のライフサイクルの思春期・性成熟期・更年期・老年期、各期において、女性がより健康に過ごしていくための看護について、健康支援と健康障害への看護の双方の視点から学んでいく。また、マタニティサイクルの看護を学ぶために必要な基礎知識を学んでいく。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 女性のライフサイクル各期の特性に合わせ、より健康に過ごしていくための看護について理解する 2 女性のライフサイクル各期に起こりやすい健康障害および看護について理解する 3 マタニティサイクルにおける生理的変化・心理社会的変化について理解する
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 女性のライフサイクル各期(思春期・成熟期・更年期・老年期)における健康支援 2 起こりやすい健康障害と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1)子宮がん 2)不妊症 3 マタニティサイクル(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)における生理的変化・心理社会的変化
評価法	出席状況、課題、演習、プロジェクト学習への取り組み状況、筆記試験を総合して評価する。
受講生への要望	母性看護概論での学びをもとに性の健康についてより具体的に学んでいくための科目である。ライフサイクル各期について学んでいくため、小児看護、成人看護、老年看護での学びも活かしていく。また、母性看護の展開Ⅰ・Ⅱで学ぶ内容の基礎となり、母性看護学実習につながる科目である。内容に興味や関心をもって授業に臨み、知識・技術を身につけてほしい。
テキスト	<p>書名/著者名/発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)系統看護学講座 専門分野「女性生殖器」/鈴木 直 他/医学書院 2)系統看護学講座 専門分野「母性看護学概論」/森 恵美 他/医学書院 3)系統看護学講座 専門分野「母性看護学各論」/森 恵美 他/医学書院 4)生涯人間発達論 第3版/服部 祥子/医学書院
参考文献	<p>書名/著者名/発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)病気が見えるシリーズ⑨「婦人科・乳腺外科」/井上 裕美 他監修/メディックメディア 2)病気が見えるシリーズ⑩「産科」/岡庭 豊 他監修/メディックメディア <p>その他、授業の中で紹介していきます。</p>

必修科目(34)

科目	母性看護学 母性看護の展開Ⅰ	単位	1	時間数	30	開講期	2年 後期	担当者	助産師:杉山 加苗 助産師:脇田由紀子 助産師:小長井由樹 保健師
----	-------------------	----	---	-----	----	-----	----------	-----	--

講義の概要および学習目標	<p>本科目では、新たな生命を生み・育てる時期であるマタニティサイクルに焦点を当て、マタニティサイクル各期に必要な看護を学んでいく。母と子を一体として捉え、母子相互関係や心身ともに著しい変化を遂げる妊・産・褥婦・新生児の特徴を理解することが必要となる。また、家族関係を再構築する時期でもあるため、対象を広い視点でとらえていくことが大切である。</p> <p>マタニティサイクル各期をつなげ、母と子がともによりよい経過をたどるための援助について、根拠を明確にし具体を考えていくとともに、マタニティサイクルに必要な看護技術を身につけていってほしい。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 マタニティサイクル各期において、母子がより良い経過をたどるための看護について理解する 2 マタニティサイクルにある対象に必要な看護技術を習得する 										
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 マタニティサイクル各期における看護 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">1) 妊娠期の看護</td> <td>妊婦健康診査・妊娠期における保健指導</td> </tr> <tr> <td>2) 分娩期の看護</td> <td>分娩期の観察・産痛緩和法</td> </tr> <tr> <td>3) 産褥期の看護</td> <td>進行性変化・退行性変化と看護</td> </tr> <tr> <td></td> <td>母乳育児支援・産褥期における保健指導</td> </tr> <tr> <td>4) 新生児期の看護</td> <td>新生児の生理的変化・日常生活援助技術</td> </tr> </table> 2 地域における母子保健サービスの実際（保健師講義） 	1) 妊娠期の看護	妊婦健康診査・妊娠期における保健指導	2) 分娩期の看護	分娩期の観察・産痛緩和法	3) 産褥期の看護	進行性変化・退行性変化と看護		母乳育児支援・産褥期における保健指導	4) 新生児期の看護	新生児の生理的変化・日常生活援助技術
1) 妊娠期の看護	妊婦健康診査・妊娠期における保健指導										
2) 分娩期の看護	分娩期の観察・産痛緩和法										
3) 産褥期の看護	進行性変化・退行性変化と看護										
	母乳育児支援・産褥期における保健指導										
4) 新生児期の看護	新生児の生理的変化・日常生活援助技術										
評価法	出席状況、課題・演習への取り組み状況、筆記試験を総合して評価する。										
受講生への要望	妊娠・分娩・産褥・新生児は切り離して学ぶことはできない。母性看護援助論で学習した内容を復習し、授業に臨んでほしい。また、演習では実践をイメージしながら取り組むことで学びを深めていってほしい。										
テキスト	<p>書名/著者名/発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門分野「母性看護学概論」/森 恵美 他/医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野「母性看護学各論」/森 恵美 他/医学書院 3) 根拠と事故防止からみた母性看護技術 石村由利子/医学書院 										
参考文献	<p>書名/著者名/発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ウェルネスから見た母性看護過程/佐世 正勝 編集/医学書院 2) 病気が見えるシリーズ⑩「産科」/岡庭 豊 監修/メディックメディア 										

必修科目(35)

科目	母性看護学 母性看護の展開Ⅱ	単位	1	時間数	20	開講期	3年前期	担当者	助産師:脇田由紀子 助産師:杉山 加苗
----	-------------------	----	---	-----	----	-----	------	-----	------------------------

講義の概要および学習目標	<p>本科目は、母性看護学における今までの学びを統合し、女性の性の健康を支える看護について学びを深める科目である。講義・演習は、実習をはさみ展開されていく。実習開始前には、マタニティサイクルにおける異常時の看護を学び、実習につなげていく。実習後は、実習で受け持った対象の看護を再考することで、母と子にとってよりよい看護とは何かを考えていくとともに、マタニティサイクルにおける看護の役割を明らかにしていく。そして、最終的に母性看護学の講義・実習をとおして自己の考えを統合し、母性看護における自己の役割を明らかにしていく。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 マタニティサイクルにおける異常時の看護について理解する 2 実習での体験をとおして、マタニティサイクルにおける看護の役割を明らかにする 3 女性の一生涯における性の健康を支えるために必要な看護について考えをまとめ、母性看護における自己の役割を明らかにする
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 マタニティサイクルにおける異常時の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 腹式帝王切開術を受ける妊産褥婦の看護 2) 低出生体重児の看護 2 マタニティサイクルにおける看護の役割 実習事例の再検討 3 女性の性の健康支援 「母性看護における自己の役割」について
評価法	出席状況、課題・演習への取り組み状況、筆記試験を総合して評価する。
受講生への要望	この科目は4月に周産期の異常について学ぶ。周産期の異常の理解は母性看護援助論・母性看護の展開Ⅰの学びと、病態生理学Ⅳの知識が基本となる。学んだことを復習し、講義に臨んでほしい。また、母性看護を学ぶ必要性を常に意識しながら、学生同士で体験や考えを共有しながら学んでほしい。
テキスト	<p>書名/著者名/発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門分野「母性看護学概論」/森 恵美 他/医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野「母性看護学各論」/森 恵美 他/医学書院 3) 根拠と事故防止からみた母性看護技術 石村由利子/医学書院
参考文献	<p>書名/著者名/発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 国民衛生の動向/厚生統計協会 2) 生涯人間発達論 第3版/服部 祥子/医学書院